

3名の俳人の軌跡から見る、戦争と俳句。

本展は、昨年10月に開催された戦前編に続く、町の近代俳句の歴史をたどる企画展です。今回は戦中編として、太平洋戦争の時期を対象に持田紫水、金子兜太、塩谷孝という3人の俳人を取り上げます。

紫水は中国大陸から東南アジア島しょ部へ赴任し、戦場のみならず、熱帯地方特有の季感や植物を題材とした美しい作品を詠み、昭和17年度馬酔木賞を受賞しました。兜太は東京帝国大学在学中に『寒雷』誌上で皆野町を舞台とする俳句や短編を発表し、後にトラック諸島へ出征します。現地で催された句会の記録が残ります。孝は「大陸打通作戦」の要員として中国大陸へ出征。戦場で詠まれた作品や、作戦行動を記録した手帳は、後に『陣中日記』として刊行されました。

本展では『巖』、『寒雷』などの俳誌や『陣中日記』等により、3人の軌跡を追うとともに、戦争俳句の背景や俳壇での位置を考えます。



陸軍軍服（塩谷孝氏 着用）
独立野戦重砲兵第15連隊

講演会

演題「太平洋戦争中の金子兜太氏について」（仮題）

講師 田中 亜美氏

1970年生まれ。98年より金子兜太氏に師事。『海原』同人。現代俳句協会会員。日本文藝家協会会員。

日時 令和5年1月22日（日）14時00分～

会場 壺春堂（国登録有形文化財）

定員 20名（定員超の場合抽選）

申込 令和5年1月13日（金）まで

※ Eメールによる

haiku.minano@gmail.com

※ 題名を「記念講演会申込」とし、本文に①参加者氏名（最大2名まで）、②電話番号を明記してください。



俳誌『巖』



『渡佛日記』